

高田さんの思い出

通信経済研究部長 宮崎順一郎

あれは、私が政策課の課長補佐をしていた頃だから、14、5年ほど前のことだ。その頃、政策課は狭くて窮屈で、肩越しによく見えた風景は、靴下を脱いだ足を机の上に乗せて水虫の手入れをする高田課長の姿だった。

そんな課長がある朝、新聞を持ってふらっとやって来て、「こういうの、どう？」とボソッとおっしゃった。

運輸省かどこかの設備投資統計の記事だった。「情報通信産業の設備投資統計を作れ。」ということだなと理解し、早速準備に取りかかった。

当時、私の部下には、北東公庫から出向してきていた佐竹さんという大変有能な人がいて、彼の活躍で、大蔵、統計局に対する要求・説明もうまくいき、承認統計として通信産業設備投資等実態調査がスタートした。

その後、我が国の情報通信産業は目覚ましく発展し、その設備投資額は、鉄鋼、自動車、電力等の重厚長大産業を追い越し、平成13年度計画額は4兆3千億円に達し、その動向が我が国経済を左右するほどまでに成長した。高田さんの先見の明には驚く。

現在、郵政研究所では、インターネット空間に

おける情報生産量に関する統計づくりに取り組んでいる。我が国Web空間における情報のフローとストックを調べようとするもので、ネット上の「国民総情報生産」の把握が夢だ。新日鉄から出向している島田研究官が精力的に調査ロボット作りに取り組んでおり、昨年の調査では、いわゆるJPドメインで、総ページ数6,500万、総ファイル数1億6,700万、総データ量4,400ギガバイトという数字が出た。

高田さんのお葬式には出ることができなかった。米国勤務を終え帰国し、事情を知らず官房長室にご挨拶にいったが会えず、待命期間を自宅待機していた私は訃報を見逃した。

2、3ヶ月して、高原さんの所に行けば話が聞ける思い、関東郵政の局長室を訪ねた。僧侶資格も持つ高原さんは、ご自宅でお経をあげさせてもらったが、そのお顔が微笑んでいるように見え、度肝を抜かれた、と語った。いかにも高田さんらしいと思った。

光の加減が何かじゃないかという人もいるが、私は、高田さんが郵政省を代表する政策官僚として堂々たる人生を歩まれ、微笑みながら逝かれたような気がしてならない。